

インナー大会プレゼン部門 2018 専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

大学名 (フリガナ)	学部名 (フリガナ)	所属ゼミナール名 (フリガナ)
フリガナ) ソウカダイガク	フリガナ) ケイエイガクブ	フリガナ) ヤスタ
創価大学	経営学部	安田ゼミナール

※大会申込書時に記入したチーム名から変更することはできません。

※パワーポイント内に動画を使用している場合は「有・無」を記入し、「有」の場合は使用するスライド番号も記載してください。

チーム名 (フリガナ)	代表者名 (フリガナ)	チーム人数 (代表者含む)	PPT 内動画 (有・無)	動画使用 スライドページ
フリガナ) キュー	フリガナ) サイトウモモノ	7	無	
CUE	齋藤桃乃			

※当日使用する PC、マイク、レーザーポインター機能付きワイヤレスプレゼンターは会場に準備しております。

これらは個別にご用意いただいても大学施設・設備の関係上ご利用いただけませんのであらかじめご了承ください。

発表時に使用する成果物 (例: 商品化した●●、店舗で配布したパンフレット、調査時に使用したアンケート)

制作したカードゲームのプロトタイプ

※成果物の配布は、『禁止』とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

研究テーマ (発表タイトル)

大切な人を守ろう！ファーストエイダープロジェクト

※必ず<企画シート作成上の注意>を確認してから、ご記入をお願いいたします。

1. 研究概要 (目的・狙いなど)

私たちの研究の目的は、心肺停止傷病者に対してその場にいる人による心肺蘇生法の実施率を上げることです。東京消防庁 (2016) によると、目撃されているにもかかわらず心肺蘇生法を実施されていない人が半数以上存在します。CUE の独自調査 (八王子市街頭 n=154) によると、生涯のうちに自分が心肺蘇生をする状況に遭遇する割合は 15%となっています。実際に私たちのチームメンバーも家族が倒れて救急車で運ばれたことがあり、その経験がこのプロジェクトを立ち上げたきっかけとなっています。私たちは、心肺蘇生法の実施率が高いシアトルや他の先進国の施策例をもとに、幼少期からの心肺蘇生法に対する学習が知識の定着や救命に対する意識の向上につながると考えました。そこで、幼少期からの心肺蘇生法の学習機会を提供するため、小学生に向けて、カードゲームを用いた楽しく学べる心肺蘇生法講座を提案します。

2. 研究テーマの現状分析 (歴史的背景、マーケット環境など)

心肺蘇生法とは、心肺停止傷病者に対してのその場の状況確認と胸骨圧迫の実施や AED (自動体外除細動器) を利用することを言います。日本 AED 財団によると、日本では年間約 7 万人が心臓突然死で亡くなっています。救命率は心停止してから心肺蘇生法の実施が 1 分遅れるごとに 7~10%低下すると述べられています。また、総務省消防庁 (2016) によると、

救急車の現場到着時間は延長傾向にあり、現在は約 **8.5 分** となっています。そのことから、その場にいる人による早い段階での心肺蘇生法の実施が必要であると言えます。他の先進国の都市の心肺蘇生法実施率をみると、ロンドンは 63.1%、シアトルは 73%、スタバングルは 73%となっています。しかし、東京消防庁（2016）によると、現在、東京のその場にいる人による心肺蘇生法実施率は 41.6%とされており、他の先進国に比べ実施率が低いことが分かります。以上のことから、私たちは**東京都のその場にいる人による心肺蘇生法の実施率の低さ**を問題視しています。

3. 研究テーマの課題

私たちはその場にいる人による心肺蘇生法の実施率を上げるためには、幼少期からの知識の学習、意識づけが必要であると考えました。理由は 2 点あります。1 点目に、**心肺蘇生法の実施率が高い国の施策の特徴が子供に着目している**からです。前述の心肺蘇生法の実施率が高い世界各国の施策を見てみると、ノルウェーは**小・中学校教育にて救急訓練を実施**しています（Bakke, 2017）。また、Physio-Control Japan（2016）によると、イギリスでは小学 5 年生からの CPR¹(Cardio Pulmonary Resuscitation)の認知度向上を目指す教育を行っています。また、東京消防庁（2012）は、**幼少期からの意識づけが心肺蘇生法の講座受講率、実施率、救命率上昇へつながっている**と述べています。このことから、高い実施率を実現するには幼少期からの学習、意識づけが必要であると言えます。2 点目に、**成人期からの教育よりも、幼少期からの教育のほうがより良い効果を得られる**からです。千田ら（2015）によると、2009 年の Fleischhackl の研究を踏まえ、**小中学校の児童・生徒は心肺蘇生法の知識と技術を保持する能力が成人に比べ長けている**と指摘されています。また、Colquhoun（2012）は、心肺蘇生法を教える最適な年齢は 7 歳から 16 歳であると述べています。加えて、田中（2015）によると、小学生の心肺蘇生法に対する意欲が講習後に有意に改善するため、**感受性豊かな幼少期に心肺蘇生法の教育を行うことに意義がある**と述べられています。以上の 2 点から、心肺蘇生法の実施率の向上には**小学生からの教育に着目すべき**だと考えます。

しかし現在、**全生徒に講座を行っている小学校は 12.8%**（札幌消防庁, 2016）となっており、その原因として**指導員不足、指導方法がわからない、指導する時間がない**と述べられています。そのため、「導入したいができない」と考えている小学校に対して、**誰もが実施できる小学生向けの心肺蘇生法の指導法を考案し普及していく必要がある**と考えます。

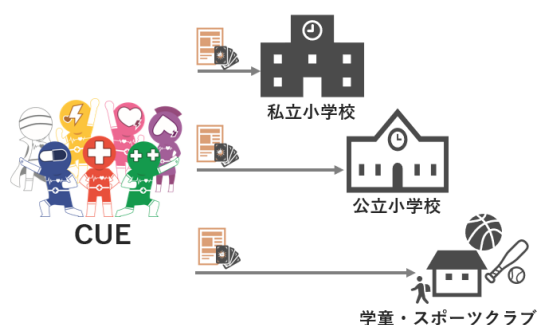
さらに、小学生に効果的に学習させるため、**楽しく学べる指導法**に着目しました。亀岡(2015)によると、**子供は楽しいと感じる授業で理解度が約 50 パーセントも上がる**ことが分かっています。また、教育活動調査研究委員会八千代市教育センター(2012)によると、子供が楽しいと感じる授業は、**ゲーム性を含んだものが一番楽しい**と感じると述べられています。そのため、私たちは、**楽しく学べる指導法が小学生に対して適切である**と考えました。

4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

図表 1 CUE 制作「ファーストエイダーカードゲーム」



図表 2 サービスモデル図



本プロジェクトの内容は大きく 2 つあります。1 点目は、**子供が楽しみながら理解し、救助意欲を向上する心肺蘇生法講座の指導方法を考案**することです。私たちが考案した講座内容は**①心肺蘇生法を楽しく学べるカードゲームの実践、②胸骨圧迫キットを用いての心肺蘇生法の実践練習、③チェックタイム**の 3 つで構成されています。講座を考案するにあたり、講座内で使用するカードゲームを開発しました。

また、私たちは講座の内容の充実を図るため、以下の工夫を重ねました。

①心肺蘇生法を楽しく学べるカードゲームの実践では、CUE が考案した**「ファーストエイダーズカードゲーム（図表 1 参照）」**を用い、カードゲームで遊びながら心肺蘇生法の手順や取るべき行動を学んでいきます。②胸骨圧迫キットを用いての心肺蘇生法の実践練習は、カードゲームで学んだ手順を対戦ゲーム方式で行い、実際に心肺蘇生法を体験してもらいます。③チェックタイムでは、講座を通して学んだ知識が身についたかどうかチェックシートを用いて確認します。このように、「**楽しみながら学ぶ**」ことに特化した子供向けの心

¹ 呼吸や心臓が停止している救急患者に対して行う、心肺蘇生法のこと。

肺蘇生法講座の内容になっています。この講座内容について学校への BLS² (Basic Life Support) 教育導入に関する検討委員会委員長の名知先生に意見を伺ったところ、「楽しく親しみやすいので、興味を持って学べらる」というコメントをいただきました。また、現在 CUE 独自に検証のための講座を行い、講座による理解度向上の検証を行っています。2 点目に、**小学校での心肺蘇生法講座の導入を増やすこと**です。そのため、CUE が考案した講座を誰もが実施できるようマニュアル化し、その講座マニュアルの普及を私立小学校、公立小学校を対象に行います。CUE が作成した講座マニュアルを利用することで、小学校の教員側は今まで小学校での心肺蘇生法教育を導入できない大きな理由であった「指導員不足」「指導法が分からない」という課題を解決することができます。これにより、小学校での心肺蘇生法教育の導入を行いやすくなると考えます。図表 2 に表しているのが私たちのサービスモデルです。私たちは、私立・公立小学校に考案した講座マニュアルとカードゲームをセットで販売します。さらに、CUE のホームページでのカードゲーム販売も行います。

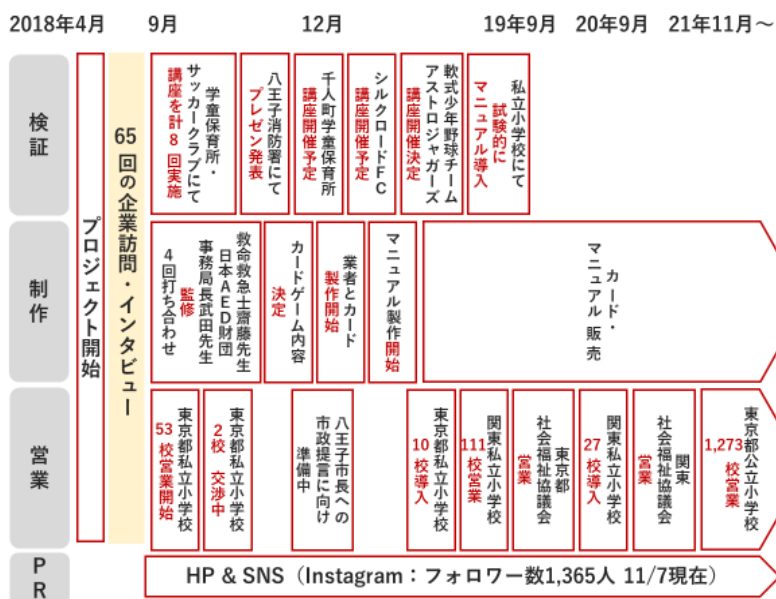
5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

私たちは、4 月にプロジェクトを開始してから現在までの 8 ヶ月間で、①**情報収集（論文などからの情報収集、専門家や企業へのインタビュー調査）**、②**カードゲームの考案・試作**、③**講座考案・開催**、④**マニュアルの作成**などを行ってきました。情報収集として、国内外の論文を読むのはもちろんのこと、専門家や企業への訪問・イベント参加などのフィールドワークを **65 回**、メール・電話でのインタビューを **540 回**、一般人へのアンケートを計 **239 名** に実施しました。カードゲームの考案・試作にあたっては、心肺蘇生法の手順を正しく学べるのはもちろん、子供にも分かりやすいものを目指して原案を作成し、専門家にご意見をいただく中、**東京医科大学八王子医療センターの救命救急士である齋藤健吾先生**、**日本 AED 財団事務局長である武田聡先生**に監修していただくことになり、計 **87 回**の打ち合わせを行い、試作品を完成させました。また、完成は 11 月末、発売開始は 12 月を予定しています。これまで計 **8 回**の講座を行い、**136 名**の方々に参加していただき、講座直後の**心肺蘇生法への理解度を 80%**、**心肺蘇生法を学ぶ意欲を 65%**に上げることができました。また、先行研究の例に倣い、4 ヶ月後にチェックテストを行う予定です。なお、効果検証に当たっては八王子市の公立小学校に相談をしたところ、実績のない私たちの講座を公立小学校で検証することが難しいとの指摘を受け、けがのリスクが高い、スポーツクラブや学童保育所などで行ってきました。

図表 3 第一回講座の様子



6. 結果や今後の取り組み



図表 4 実行計画

暫定的な結果ですが、第一回の講座から、約 1 か月後の記憶定着率は約 **80%**でした。また、保護者に知育ゲームとしてカードゲームを購入したいか調査したところ **10 人中、6 人の方が「購入したい」と**回答しました。さらに、子供たちからは、「今日は思い出に残る **1 日だった**」「**またやりたい**」などのコメントをいただきました。加えて、私たちのカードゲームは日本 AED 財団主催の 2018 年度 AED 功労賞にて**優秀賞**に選出され、有効な教材として評価していただいています。また、学校への BLS 教育導入に関する検討委員会委員長の名知先生からは、「**学校への BLS 教育導入に関する委員会では是非普及に協力します**」と仰っていただき、今後協力しながら普及を進めていく予定です。

今後、私たちが行うことは、①**マニュアルの検証**、②**マニュアル普及のための営業活動**、③**PR 活動**です。マニュアルの検証は、

² 心肺停止または呼吸停止に対する 1 次救命処置のこと。

比較的導入しやすい私立小学校に交渉し、検証を行っていきます。現在、私立小学校 2 校に検証協力として導入していただくために、交渉中です。また、今後東京都内の私立小学校 53 校から導入のための営業活動を行い、東京の公立小学校 111 校のうち、27 校への導入も目指します。さらに、その後市場を拡大し、関東全域へと広がっていきます。加えて、12 月に八王子市長へ「小学生に対する心肺蘇生法の教育の重要性について」の提言を行う機会獲得のために準備中です。

7. 参考文献

- 亀岡政貴 (2016)「全ての子どもの学習意欲を高める授業づくり」愛媛大学教職大学院ワーキングペーパー
- 河崎雅人他 (2016)「『10 作り』学習におけるトランプ教材の有効性の検証」日本教育工学会論文誌
- 教育活動調査研究委員会 八千代市教育センター (2013)「学ぶ意欲を高める」
- 札幌消防庁 (2016)「消防機関が実施する各学校における BLS 教育の実態調査について」消防庁
- 総務省消防庁 (2015)「平成 26 年版 消防白書」消防庁
- 総務省消防庁 (2018)「平成 29 年版 救急・救助の現況」消防庁
- 高橋順一(2017)「小学校の BLS 教育における日本赤十字社の取り組みに関する報告」日本臨床救急医学会雑誌
- 千田いずみ (2015)「小学生における心肺蘇生に対する理解度および実技実施能力の検討」日本臨床救急医学会雑誌
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jsem/18/4/18_575/_pdf
- 秦知人他 (2013)「自動体外式除細動器(AED)導入に関する費用便益分析」東京大学公共政策大学院 WP
- Gavin D Perkins (2015),“National initiatives to improve outcomes from out-of-hospital cardiac arrest in England” EMJ .
- K. Bakke (2017), “First-aid training in school: amount, content and hindrances” National Center for Biotechnology
- R Fleischhackl, et al., (2009), “School children sufficiently apply life supporting first aid: a prospective investigation”, *Crit Care*
- Michael Colquhoun (2012), "Learning CPR at school – Everyone should do it”, *Resuscitation*, 83.
- 東京消防庁 (2017)「応急手当の重要性」(閲覧日 2018 年 8 月 19 日)
<http://www.tfd.metro.tokyo.jp/lfe/kyuu-adv/joukyu/oukyu-01.htm>
- 日本 AED 財団 (閲覧日 2018 年 8 月 19 日) <http://www.aed-zaidan.jp/knowledge/>
- Physio control (2016)「ヨーロッパの救急救命の現状」

<企画シート作成上の注意>

- ※本企画シートは審査の対象となり、予選会・本選の前に、実行委員会から審査員(ビジネスパーソン・大学教員)の方々に事前にお渡しいたします。
- ※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1 チーム・1 点提出してください。また、インナー大会終了後、プレゼン部門にご協力いただいている日経ビジネス様(株式会社日経 BP マーケティング)に大会結果ページを作成いただいております。大会結果ページにはチーム名やご提出いただいた本企画シートが掲載されます。
- ※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1~7 以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。
- ※本企画シートは、インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項と企画シート作成上の注意を含め、4 ページ以内に収めてください。実行委員会から審査員に渡す際は、A4 サイズでプリントし、4 ページ目までをお渡しします。
- ※大会参加申込み時点から、チーム編成の変更(チームの人数・交代など)は、「不可」とさせていただきます。ただし、チームメンバーの留学等やむを得ない事情でチーム編成に変更が生じる場合は、実行委員会(プレゼン局)にご連絡ください。実行委員会側で協議のうえ、ご返答いたします。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。
- ※企画内容は、未発表の(過去に他誌・HP などに発表されていない)ものに限り、ただし、学校内での発表作品は未発表扱いとなります。
- ※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、版権の使用許諾を得てください。日本学生経済ゼミナール関東部会・日経 BP 社・株式会社日経 BP マーケティングは一切の責任を負いません。
- ※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先(使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など)を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Web サイト上の資料を利用した場合は、URL とアクセスした日付を明記してください。
- ※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。
- ※パワーポイント内で動画を使用する場合は、必ず「有」とご記入ください。「有」の場合は使用するスライド番号も明記してください。動画を使用する際の注意事項は参加要項に記載しております。
- ※成果物を使用する場合は、必ず企画シートにご記入ください。企画シートにご記入が無い場合、発表当日のご使用を「不可」とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

↑ ここまでを 4 ページ以内におさめて、ご提出ください